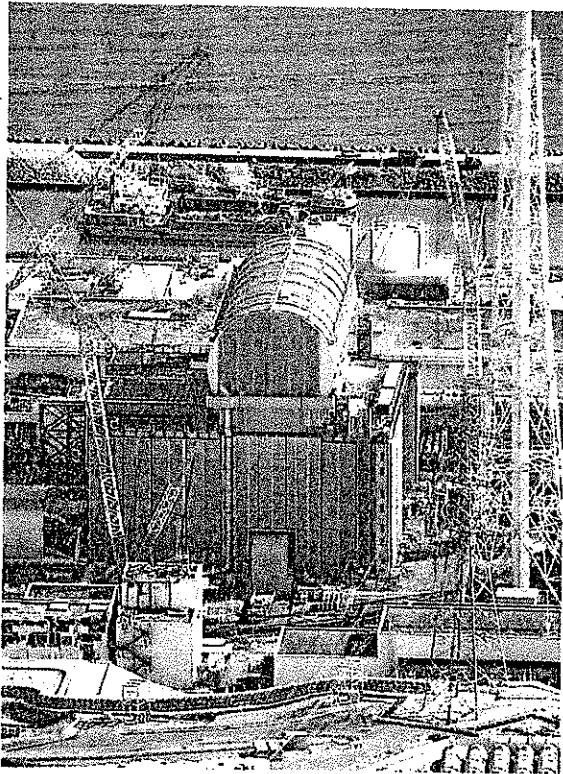


# 3号機地震計 故障を放置

東京電力が、福島第1原発 3号機の地震計2台が故障していたのに放置していたため、13日に福島県などで最大震度6強を観測した地震のデータを観測できなかったことが判明した。22日に開かれた原子力規制委員会の会合で、委員らの質問に東電が答えて明らかになった。

東電によると、2011年の原発事故の影響で3号機の原子炉建屋の耐震性が劣化し、安全性を確認する必要があることから、規制委は地震計の設置を提案。東電は20年3月に建屋1階と5階にそれぞれ設置した。

その後、地震計が水にぬれるなどしたため、両方とも故障。東電は今年3月に、両方とも故障した地震計を交換する計画を立てていたが、13日の地震発生時に、両方とも故障していたことが判明した。



東京電力福島第1原発の3号機。福島県大熊町で2019年2月、本社へりから手塚耕一郎撮影

## 福島第1 13日の揺れ観測できず

東電は故障を知らず、修理や交換をしていなかった。放置した理由について、東電の担当者は「原因究明ができないと、設置してもまた壊れる可能性があったため」と釈明。地震後に何度か記者会見を開いていたが、こうしたいきさつの説明はなかった。規制委の会合に出席した有識者は「危機管理ができていない」などと批判した。

東電は今後、3号機から900メートル離れた6号機の地震計で観測された記録を参考にして、3号機の安全性について確認する。

13日の地震後、福島第1原発では1号機と3号機の格納容器の水位が下がっていたり、汚染処理水を保管するタンクがすれたりするなどの影響が出ている。

【塚本恒、荒木涼子】